

教育体験旅行&民泊のすすめ講演会

今なぜ、農家民泊なのか？

そこには生きがい、学び、人との出会い、若い人と接し自分の技能や人生を語る場があります。地域にお金が落ちる仕組みを考えることができる、これらの取り組みを体験型教育旅行の第一人者、藤澤安良氏が熱く語ります。

◆と き：11月9日（水） 18：30～

◆ところ：川・森・文化・交流センター やまびこホール

◆演 題：～農家民泊仕掛けの達人が語る～

「舞台は里山 地域と暮らしはこう変わる」

◆講 師：体験教育企画 代表 藤澤 安良 氏



【お問い合わせ】

担当：商工観光課（小笠原）

電話：0826 - 28 - 1961

FAX：0828 - 28 - 1843

E-Mail：fogasawara253@akiota.jp

現場

民泊修学旅行誘致へ着々

江田市 官民組織設立・来秋受け入れ

呉・東広島

民泊型修学旅行の誘致を目指し、江田島市が準備を進めている。来秋の受け入れも決まり、9月末に官民組織「江田島海生体験交流協議会」を設立した。体験プログラムの指導者や宿泊家庭に支払う料金を決めるなど、態勢づくりを急いでいる。

(加茂孝之)

ホスト家庭の確保急務

「人口減が続く島のイメージアップ、ぜひ成功させたい」。協議会の設立総会で、会長の前井嘉明副市長が力を込めた。修学旅行生1人につき、カキ打

ち2400円、ホームステイ15600円など料金を設定。宿泊や農業体験などの部会で個別課題を解決していく。協議会設立に先立つ



民泊部会代表の清水さん(右から2人目)宅に宿泊、食卓を囲み談笑する大阪市の中学生たち(7月)

7月には、大阪市の中

学生30人を試験的に招いている。シカヤックやシラス漁を体験してもらい、8班に分かれて泊まり、受け入れ家庭と交流を深めた。

礼状に感動

生徒からは「島の歴史を教えてもらい勉強になった」「一緒に料理をして家事の大変さ

余裕を持つて70世帯程度を目撃にするが、登録数は10月末現在で22世帯だ。来年10月に高校生160人が訪れる。受け入れ家庭確保は急務だ。

協議会の民泊部代表、清水昭彦さん(右)は「受け入れ側が何を望むのか周知されていない。経験者が体験を話す場を設け、賛同者を増やす必要がある」と話す。

受け入れ経験者にアンケートも実施。「100人規模の生徒をどう迎えるのか」「何を体験させればよいか悩んだ」などの問題点も浮かび上がった。

高まる需要

体験型修学旅行への需要が高まる中、中国地方では広島湾へ1エリア・海生都市圏研究協議会が仲介役となって誘致を進める。先進地の山口県周防大島町のほか、大崎上島町も取り組みを強める。

研究協議会の小田俊一誘致担当コーディネーターは「独自色を出さなければ誘致競争で埋没する。官民で態勢を整え、島の魅力をPRする必要がある」と説く。

豊かな自然を生かすつつ、どの魅力を発信しているのか。交流人口の増加を図り、少子高齢化に立ち向かう島の挑戦に期待したい。

※受け取り収入は生徒1人当たりの金額(円)

プログラム名	所要時間など	担い手の受け取り収入
ホームステイ(民泊)	1泊	5,600
作業体験	3時間	1,600
カキ打ち体験	3時間	2,400
シラス漁体験	3時間	4,000
ミカン農家作業	3時間	2,000
シーカヤック	3時間	4,800

主な体験プログラム

呉支社 ☎08233(22)5525 FAX(25)4817
 東広島総局 ☎082(422)2660 FAX(420)0124
 竹原支局 ☎0846(22)2393 FAX(23)0027
 江田島支局 ☎0823(42)0213 FAX(40)0008